

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.22 2007年12月15日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

大学発のベンチャー インタロボット、Flash ベースのコミュニケーションツールを開発



InterRobot AERU banner オペレータ画面例 - オペレータがクライアント（顧客）に商品説明を行っている画面



InterRobot AERU banner クライアント画面例 - オペレータがクライアント（顧客）とチャットにて会話している画面

インタロボット株式会社（東京都大田区）は、PC ベースのコミュニケーションツール「InterRobot AERU（インタロボットアエ

ル）」を ASP サービスとして提供している。

InterRobot AERU は、アドビシステムズの Flash をベースに開発されており、Flash がインストールされているブラウザであれば、InterRobot AERU 用のソフトウェアを別にインストールする必要もなく、簡単にコミュニケーションが行えるというもの。

「誰でも手軽にそして簡単操作でコミュニケーションが行えることを主眼に開発した。ネットショップ、企業の顧客サポート、専門家・コンサルタント用の相談業務などのビジネス用途の他、単身赴任者と家族のコミュニケーション向けとしても活用が広がっている。当社では、ASP サービスの他、パッケージ販売、あるいは AERU 技術をベースにしたパートナー企業との新商品開発などの事業を積極的に行っている。」（インタロボット）

事業拠点は、岡山（本社）と東京にあり、社長の小川浩基氏は、東京出張中はこの InterRobot AERU で岡山の社員や自分の家族とテレビ電話で連絡を取り合ったりしているという。「AERU の通信パネル（ユーザインターフェイス）は、非常にわかりやすく設計されていることを実感してもらえと思う。パソコンにあまり詳しくない人も簡単に使えることを念頭に置いているからだ。」（インタロボット）

インタロボットは、インターネット上にコミュニケーションサーバと AERU WEB サーバを配置することで、InterRobot AERU サービスを利用できる環境を提供している。「AERU banner（アエルバナー）」と「AERU address（アエルアドレス）」の2つのサービスがある。

AERU banner は、ホームページにバナーとして貼り付け、そのページにアクセスしたユーザがそのバナーをクリックすることで、待機している相手と音声通話、テキスト、写真共有、書き込み、スナップショット、映像配信が行えるシステム。

バナーには待機中、応対中、不在中の3種類のモードが表示される。待機中は、相手とすぐにコミュニケーション(相手が着信できる)ができる状態、応対中は、既にコミュニケーションを行っている状態、不在中は、相手がすぐに応対できない状態。そして応対、不在中には名前と電話番号を入力する画面が表示される。後で折り返し対応するためだ。

AERU banner は、ネットショップやコールセンター、サポートなど向けに使用する場合、音声やチャットでアクセスしてきたユーザに、オペレータから写真や表などを見せながら会話ができ効率的な顧客対応や営業が行える。さらに、映像配信機能を使えばオペレータの顔をユーザに見せながらの会話も可能だ。「通信パネルは、直感的でわかりやすい。また、音声通話中やチャットを視覚化する仕組みを入れているので、会話中のお互いの声を色で表示する。コミュニケーションの行き違いを防ぐことができるためお互いの意思疎通を図りやすい。」(インタロロボット)

このAERU banner は、インタロボットのウェブサイトでユーザ登録を行うと ID とパスワードが発行されすぐに使用ができる。使用するには、まず、同社サイトのバナー作成のページに行く(写真左)。そこでバナーに表示させる文字や背景色などを指定する。そうすると、ウェブサイトには貼り付けるための html のコードが生成される。後はそれをコピー & ペーストで自社のウェブサイトを設定すれば、すぐに AERU banner が使えるようになる。「AERU banner と AERU address は、いずれも初期費用は無料。ユーザ登録完了とともに最短即日で使用開始できる。またユ

ーザ独自のバナーを作成することも可能だ。」(インタロロボット)

AERU banner は、ホーム、ベーシック、ビジネス、プロと4種類のサービスを月額利用料金で提供。オプションとしてファイル転送と設定サポートを提供している。映像配信や音声通話は、ビジネスあるいはプロのみで提供している。1ライセンス当たりの月額利用費用は、ベーシックで 8,400 円、ビジネスで 10,500 円、プロで 19,950 円。ホームタイプは、現在リリース前で価格は未定。

次に AERU address は、ワンタイム URL リンクをメールで送って簡単にテレビ電話ができるシステム。テレビ電話をしたい相手へのメールの本文に AERU address 指定の URL を記載する。そしてお互いにそのリンクをクリックすることで、音声電話やテレビ電話用の画面がポップアップ的に画面上に出てきてそこから会話が可能になる。



InterRobot AERU address-特別なソフトウェアなしでメール本文の URL をクリックするだけでお互いに会話が行える

機能としては、テキストチャット、描画、スナップショット(写真を撮って相手に見せる機能)など単に会話だけでなく写真や表などを共有したりすることもできる。「一般のホームユーザ以外にも、ビジネス用途としては、たとえば、デザインの打合せを行ったり、出張中のビジネスマンやテレ

ワークのため自宅勤務を行っている社員が簡単な操作でビジネスミーティングを行ったりという使用方法がある。音声と映像はビジネス用途としては申し分ないと自負している。」(インタロボット)

AERU address は、ホーム、ベーシック、ビジネス、プロと4種類のサービスを月額利用料金で提供している。テレビ電話や音声通話は、ビジネスあるいはプロのみで提供している。1ライセンス当たり月額利用費用は、ベーシックで 8,400 円、ビジネスで 10,500 円、プロで 29,950 円。ホームタイプは、現在リリース前で価格は未定。2008 年始めにはビジネスに特化した新バージョンも発表予定と聞く。

インタロボットは、2000 年 3 月に設立された大学発のベンチャー企業。岡山県立大学とコアテック株式会社の産学連携によって生み出された iRT(インタロボットテクノロジー)を基盤技術として創業。当初はロボットシステムの開発・販売・レンタル、キオスク端末向けのアプリケーション開発、さらにそれらに関する受託研究開発などを行ってきた。代表取締役は、小川浩基氏(工学博士)、技術顧問は、ヒューマンインタフェイス学会会長 渡辺富夫氏(工学博士)。

インタロボットテクノロジーは、対人コミュニケーションの基盤が対話者双方のリズム同調であるという考え方に基づいて生まれた技術。音声から人のコミュニケーション時の身体動作をリアルタイムに自動生成。iRT を導入することで、ロボットやCGキャラクターのインターフェイスと対人システムにおいて一体感を生み出す。それによって、人と人とのコミュニケーションを、間接的に機械を通して行ったとしても実際と遜色ない自然な会話が行えると同社では説明する。

2007 年始めからは、InterRobot AERU 事業を開始。「弊社は人のコミュニケーションをテーマに、遠隔コミュニケーションのあり方を研究している。遠隔でありながら対面コミュニケーションのような感覚で対話できるシステムの開発を目指しており、今後この分野において力を入れていきたいと考えている。」(インタロボット)

ポリコムジャパン、4人から28人まで対応した HD 対応テレプレゼンスシステムを日本発売、デモルームも東京都内に開設



Polycom RPX HD

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、イマーシブ・テレプレゼンス・ソリューション「Polycom RPX HD」のデモルームをポリコムジャパン東京オフィス内に設置したことを発表。

Polycom RPX HD は、今年 3 月 14 日に日本市場向けに発表され 2007 年後半から販売開始予定と説明されていたが、今回の開設とともに国内販売を本格的に開始することになった。

「Polycom RPX HD は、遠隔での会議を如何にリアルに近づけるかがポイントのソリューション。当社システムの中では最上位に位置づけられる。機械を意識せず、ユーザが使用によるストレスや疲労を和らげ、遠隔地との会議に如何に集中できるか、遠隔会議技術に必要な同室感や没入感(イマーシブ)を人間工学の観点から設計開発されている。欧米では多数の導入事例がある。役員会議、教育、医療などでの利用が多いと聞いている。」(ポリコムジャパン)

ポリコムの RPX HD は、同社が買収したデスティニー・コンファレンシング社(2007 年 1 月発表)のテレプレゼンスソリューションをベースに開発されている。

「RPX HD は、企業での導入だけではなく、レンタル会議室として提供する事業者も今後出てくると期待している。」(ポリコムジャパン)

Polycom RPX HD は、コーデック、スクリーン、テーブル、照明、スピーカ、マイクなどテレプレゼンス用会議室に最適なコンポーネントをオールインワンパッケージで提供する。実物大に近いフェイストゥフェイスのミーティングとデータやコンテンツの共有も行える。テーブルには、コンテンツ共有用のテーブルに収納可能な液晶ディスプレイ、RPX HD を操作するためのタッチスクリーンディスプレイもある。

各コンポーネントは、モジュール式になっており、建物に固定されないため容易に設置ができ建物の拡張に応じて移動も可能。テーブルやカーペットの色、椅子の生地、背景パネル(カスタマイズ可能)の選択なども含まれる。

また、システム以外にもメンテナンスサービスとして、VNOC(Video Network Operations Center、ビデオネットワーク・オペレーションセンタ)が 24 時間 x365 日ユーザのサポートを提供する。



ポリコムジャパン Polycom RPX HD デモルーム - 画面中央に小さく黒っぽく見える長方形のところにカメラが内蔵されている

提供されるモデルは、スクリーン数(2または4)、座席数(4人から 28 人、カスタマイズも可能)、用途(テレプレゼンス用のみか通常の会議室としても使えるマルチ目的)によって最適なモデルを提供する。スクリーンは、リアプロジェクション方式を採用した大型の HD 対応シネマビジョン型スクリーン。スクリーン数が2枚のタイプは、「RPX 200 シリーズ」、4枚タイプを「RPX 400 シリーズ」と呼ぶ。それぞれのシリーズには座席数などで複数のモデルを用意している。

コーデックは、スクリーン数に応じてその数が変わる。コー

デックは、Polycom HDX 9004 シリーズを使用している。たとえば、2スクリーンのタイプは、2つのコーデックを搭載しており、その2つが連動して相手側の全体映像を合成してスクリーンに表示させる。4スクリーンのタイプは、4台コーデックを搭載していることになる。

スクリーン中央にはカメラが配置されている。ここには「Polycom EyeConnect(ポリコム・アイコネクト)」という技術が使われ、ユーザが自然に相手と視線に合わせられるような工夫がされている。

また、座席後方の天井にVNOC サポート用のカメラもオプションで設置できる。カメラはユーザ側のスクリーンのみをモニターできるようになっており、多地点接続や障害等時に、ユーザのリクエストに応じて VNOC のサポートがユーザの画面の表示具合や動作状況を確認するために使用する。

マイクは、天井吊り下げ式となっている。着席するユーザの頭上から音声を拾うため、テーブルに配置するよりもマイクに意識せずに話しができる。また、スピーカはスクリーンパネル部に内蔵されているため、音源(相手側の発音者)に応じて左右あるいは中央から音が聞こえる。

コーデック部は、H.323/SIP に対応しており、映像は、H.264/HD 対応(720p)、音声は、ワイドバンドステレオ音声「Polycom Siren 22 StereoSurround(ポリコム・サイレン・22・ステレオサラウンド)」となっている。同社の HDX 9000 シリーズや VSX シリーズの他、多地点接続サーバ、HD 会議レコーディング、あるいは他社の H.323 システムなどとの接続も可能。多地点接続による会議も行える。

価格はオープンプライス。参考価格は、ポリコムジャパンによると、RPX 200 が 3,000 万円/サイト～、RPX 400 は、5,000 万円/サイト～。VNOC のサポートは、オプションで年間契約となっている。

NEC エンジニアリング、PC プレゼンテーション受信機能やアナログ回線インターフェイスを搭載したテレビ会議システムを発売



MEDIAPOINT IP3

NEC エンジニアリング株式会社(東京都港区)は、ビデオネットワークソリューション商品「MEDIAPOINT シリーズ」のラインナップに「MEDIAPOINT IP3(メディアポイントアイピースリー)」を新たに追加、12月11日より販売を開始した。

「MEDIAPOINT IP3は、当社がこれまで培ってきた画像処理技術、音響エコーキャンセラ技術を集結して開発されたテレビ会議システム。高画質・高音質を追求し、クオリティの求められる市場に適した性能を有し、且つコストパフォーマンスに優れた製品と自負している。」(NEC エンジニアリングインターネットターミナル事業部)

MEDIAPOINT IP3は、PCプレゼンテーション画面の共有や携帯電話などによる音声での会議参加を従来の同等製品よりも低コストで実現した点が今回の大きな特長。

PCプレゼンテーション画面共有では、ITU-T 勧告 H.239 に準拠したPCプレゼンテーションの受信機能(VGAとXGA)を標準装備。テレビ会議のカメラ映像を表示しながら、パソコンの画面に表示される会議資料を同時に受信することができる。その場合、同社が既に販売している「VISUALINK TC-3100」とMEDIAPOINT IP3を組み合わせることになる。

VISUALINK TC-3100は、今年4月に発売した製品で、10地点までの多地点接続機能や、PC画面送信機能を搭載している。NEC エンジニアリングとしては、両機種のを組み合わせによって従来機種より低コストで多地点会議やPC画面共有機能を実現できると考えている。また暗号化(独自方式、

AES)にも対応する。ユーザの通信上のセキュリティを考慮した。テレビ会議の映像や音声などの通信自体を暗号化して送受信するため最近のテレビ会議には標準で搭載されてきている。

また、今回新たに携帯電話の接続インターフェイスを搭載。それによりテレビ会議中に携帯電話でその会議に参加することも可能になった。つまり、ポイントツーポイント(1対1)でのテレビ会議接続中に、携帯電話がそこに割り込み接続して、テレビ会議と携帯電話混在の会議も行えるということ。たとえば、外出中の社員が社内で行われているテレビ会議に、電話で参加することが可能になる。

MEDIAPOINT IP3は、通信プロトコルはH.323/SIP、通信速度は、64kbps～1920kbpsまで対応。画像符号化方式には、H.264を、解像度は、従来の標準的なCIFやQCIF以外にも解像度の高い4SIF(704x480)、2SIF(352x480)もサポートしている。

「4SIFをサポートすることで、ホワイトボードや黒板をカメラで撮影したり、書画カメラで資料を撮影したりした場合、従来のCIFなどより鮮明な映像を送信することができる。」(NEC エンジニアリング)また映像だけではなく、音声は、電話で使われている音声帯域3.4kHzの4倍以上の帯域である14kHz(G.722.1C)を採用している。これはワイドバンド音声と呼ばれるもの。14kHzでの声の聞こえ方は、電話での聞こえ方と違いCD音声に近いものがある。

ワイドバンド音声を採用しているとともに、「MEDIAPOINT IP3標準装備の14kHz対応高性能マイクロフォン(AMU)を使うことで、話者方向を検出して高精度で集音するとともに、背景ノイズを抑制してエコー及びハウリングの少なく、クリアで臨場感溢れた音声通信を実現する。」(NEC エンジニアリング)

外部テレビモニターやディスプレイ用に映像音声の入出力は、RCAや、S-VIDEO、RGBなどの各端子を装備。

カメラを内蔵したオールインワンタイプだが、筐体サイズは、280mm(幅) x 80mm(高さ) x 200mm(奥行き)、重量は500gとサイズ、重さともコンパクトで軽量タイプ。カメラ三脚

に備え付けることにも対応している。「ファンレスのため音は静かで低消費電力の設計になっている。回線、外部機器との接続が簡単。」(NEC エンジニアリング インターネットターミナル事業部 営業部)

3 製品主要スペック比較

	MEDIAPOINT IP3	VisuaLink TC-3100	MEDIAPOINT IP2
回線	H.323,SIP		
その他回線	アナログ回線 (RJ-11)	-----	H.320
画像符号化	H.261,H.263,H.263+,H.264		
解像度	CIF, QCIF		
	4SIF, 2SIF	-----	
音声符号化	G.711, G.728, G.729A, G.722		
	G.722.1C	-----	
通信速度	64kbps~1920kbps		
暗号化	AES 暗号化		-----
PC プレゼンテーション	VGA/XGA 受信 (H. 239)	VGA/XGA 送信 (H. 239)	-----
内蔵 MCU	-----	最大 10 地点 まで	最大 4 地点 (IP)
マイク (4 個まで で 連 結)	14khz 対応		7khz 対応

*NEC エンジニアリング製品資料に基づき作成



MEDIAPOINT IP3 の標準価格は、448,000 円 (税抜)。カメラを内蔵した本体、専用マイクロフォン (AMU) (写真左)、リモートコント

ローラが一式。オプションとして外部カメラ、専用マイクロフォン、カメラ制御ケーブル、パソコン制御ケーブルがある。

NEC エンジニアリングでは、年間 1200 台の出荷を見込んでいる。4地点多地点機能と ISDN (H.320) と IP に対応した MEDIAPOINT IP2 は継続して販売する。

NTT ビズリンク、HD 対応のテレビ会議多地点接続サービス開始

NTT ビズリンク株式会社 (東京都文京区) は、ハイデフィニション (HD) 対応のテレビ会議多地点接続サービスの開始を発表した。12 月 14 日より。

NTT ビズリンクは、1997 年にまず ISDN テレビ会議多地点接続サービスを開始、その後企業におけるブロードバンドインターネットの普及とともに、2003 年秋から IP テレビ会議向けのサービスも開始し今日に至るが、最近特に「フレッツ IP 多地点サービス」の引き合いが増えているという。

また、HD 対応のテレビ会議は、各メーカーがハイエンド型のテレビ会議端末として開発・販売を開始しており、テレビ会議のセミナー利用、医薬系、エンターテインメント系、企業の経営者層会議などでの利用シーンを中心に利用が広がっていると同社では説明する。そういった背景から HD での多地点会議への要望が高まり、今回 HD 対応のサービスの提供を開始することになった。

ただ、従来のテレビ会議が主に 384kbps 程度での利用が主流だったのが、HD テレビ会議システムにすることで、1拠点あたり 1Mbps 以上のネットワーク帯域が必要になる。そうなると多地点接続を HD で行う場合、ネットワークに多

大なトラフィックが集中するため、安定したテレビ会議を行うための通信回線帯域の確保と管理が必須になる。よって、サービスメニューの追加も合わせて行うことでユーザに信頼性の高い HD 多地点サービスを提供したい考えだ。

今回発表されたサービスの概要は以下のとおり。(1)テレビ会議専用ネットワークの高速メニュー追加。HD 品質でのテレビ会議に対応し、テレビ会議専用ネットワークを従来の最大 2Mbps から最大 4Mbps に向上させた。(2)HD テレビ会議対応多地点接続サービス(タイプD)。HD品質に対応したテレビ会議の多地点接続サービスメニューを追加。

料金的には、基本的には月額固定のネットワーク利用費と多地点利用費になる。ネットワーク利用費は、1Mbps 31,500 円/端末(税込み、以下同)から。多地点利用費が、基本費(1会議あたり)210,000 円+52,500 円/ポート(端末)となる。1端末あたり1ポートを使うという計算。

HD対応については、ライフサイズ、ポリコム、タンバーク、ソニー各社のHD対応テレビ会議に対応しており、画面分割(CP)や資料共有(H.239 等)も対応している。また従来のテレビ会議端末(HDに対してSDなどと言う)とHD 端末の混在多地点会議もサポートしている。その場合でも、HD 端末同士の映像は HD 品質にて利用は可能としている。

NTT ビズリンクは、1997 年の多地点サービス開始以来、ISDNとIPのテレビ会議を併せて、約2,900社の会員ユーザに利用されている。自社で購入すると効果で管理運用の多地点接続テレビ会議が、端末操作のアシストからトラブルシューティングまでの運用サービス付きながら、安価・簡単に可能な点を評価されているという。

ポリコムジャパン、Polycom RMX 2000 の新バージョンを発表。フル・トランスコーディングによる HD 対応の多地点画面分割モードや多言語サポート

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、「Polycom RMX 2000」のソフトウェア新バージョンを発表。Polycom RMX 2000 は、ユニファイド・コミュニケーション環境

に対応し HD ビデオ会議と音声会議を混在した多地点会議を可能とするシステム。

今回新たに発表されたバージョン 2.0 では、フル・トランスコーディングによる多地点画面分割モードを使った会議を行える。画面分割モードとは、画面分割、1画面に複数の拠点映像を表示する方法。Continuous Presence という。常に画面上に表示されているという意味。CP と略す場合もある。

フル・トランスコーディングとは、端末の機能や性能の違いを吸収しそれぞれ個々の端末の最適な接続で多地点が可能になる機能。

ビデオ会議端末によって、HD、SD、あるいは CIF などの解像度に対応した端末がある。つまり、端末には HD に対応した端末、HD には非対応の端末、非対応でも CIF しか対応していない、あるいは、4CIF まで対応している端末など個々の端末によって解像度の違いがありえる。

しかし、実際に多地点会議を行う際には、それらの端末が同一会議に混在する場合がある。混在環境では、通常共通の解像度(たとえば、CIF など)で全ての端末が多地点接続することになる。そうなると、たとえば、それより解像度の高い4CIFやHDの端末はその最高の解像度を利用できないというデメリットが起こる。フル・トランスコーディングは、この Polycom RMX 2000 の特長となるひとつの機能。

また多地点接続には、音声会議も接続させることも可能。そのためには、今回の新バージョンと E1/T1 インターフェイスカードと追加する必要があるが、PSTN または VoIP 音声通話で最大 400 ポートまで対応する。

Polycom RMX 2000 はユニファイド・コミュニケーションネットワークの中核として使用されることを想定して設計されているため、今回のバージョン 2.0 からアバイアの「Avaya Video Telephony Solution(アバイア・ビデオ・テレフォニー・ソリューション)」とも統合できるようになった。

その他では、今回の新バージョンで、12 言語をサポートする。対応言語は、日本語、英語、中国語(簡体)、中国

語(繁体)、ロシア語、ドイツ語、韓国語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、ノルウェー語。

Polycom RMX 2000 は、認定販売代理店を通じて現在販売中。価格は、1041 万 6000 円(税込み)から。バージョン 2.0 ソフトウェアは、保守契約期間中のユーザには無償提供となる。

ポリコムジャパン、Polycom VSX シリーズ バージョン 8.7 を発表、H.323 と SIP の切り替え操作の簡素化、管理機能などの強化

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、「Polycom VSX」シリーズの最新バージョン「Polycom VSX バージョン 8.7」を発表。Polycom VSX シリーズは、全世界で 15 万台の出荷台数を突破したフラッグシップのビデオ会議システム。日本では Polycom VSX 7000 シリーズは、2003 年 10 月に、また、Polycom VSX 8000 シリーズは、2004 年 8 月に発売。

今回の新バージョンは、以下の特徴がある。(1)アバイア社(「Avaya Video Telephony Solution(アバイア・ビデオ・テレフォニー・ソリューション)」)をはじめとする戦略的パートナーとのインテグレーションをサポートし、ユニファイド・コミュニケーション環境での利用が可能。

(2)H.323 と SIP の切り替え操作の簡素化。Polycom VSX または Polycom V シリーズのシステムは、ユーザインターフェイスに表示されるボックスにチェックを入れるだけで、H.323 と SIP を簡単に切り替えることができる。

(3)サービス品質(QoS)の向上。MTU(1 回の転送で送信できるデータの最大値)のサイズ追加や帯域幅を動的に割り当てることが可能で、ビデオ管理者はビデオネットワーク上の QoS 設定をより柔軟に行える。

(4)リモート管理(SNMP)。SNMP バージョン 2c により、SNMP によるリモート管理を強化した。

(5)多地点会議の画像品質を向上させた。Polycom VSX シリーズと Polycom V シリーズにおいて、多地点接続サーバ(MCU)からのビデオの切り替え処理や ISDN のフレーム損失

に対する処理が向上した。

(6)言語サポートの拡張。新たにフィンランド語サポートし、Polycom VSX が対応する言語は日本語を含み 17 言語。



Polycom VSX 7000



Polycom VSX 8000

Polycom VSX シリーズは、現在ポリコム認定販売代理店にて販売している。ソフトウェア保守契約期間中のユーザは無償で提供。(関連記事:Vol.5 No.7 2003 年 10 月 15 日号、Vol.6 No.13 2004 年 8 月 15 日号など)

ポリコムの HD ビデオ会議システム、米調査会社 Wainhouse Research 社の製品比較で最高評価を得る

米調査会社 Wainhouse Research 社は、実施したビデオ会議ソリューションの製品比較評価を実施。その結果ポリコムの HD 対応ビデオ会議システム「Polycom HDX」シリーズが最高評価を得たとポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)が発表。

Polycom HDX シリーズは、評価項目 10 項目中 8 項目で最高点を獲得。画質、音質、システムパフォーマンス、HD ビデオ会議端末と SD(非 HD 対応)端末の相互運用性、カメラ品質と性能、使い勝手、コンテンツ共有(H.239)の項目で、ポリコムを含む3社の関連製品が比較評価された。

市場動向

米テレビ会議調査会社 Wainhouse Research 社、2007 年第三四半期（7 月-9 月期）テレビ会議市場レポート発表

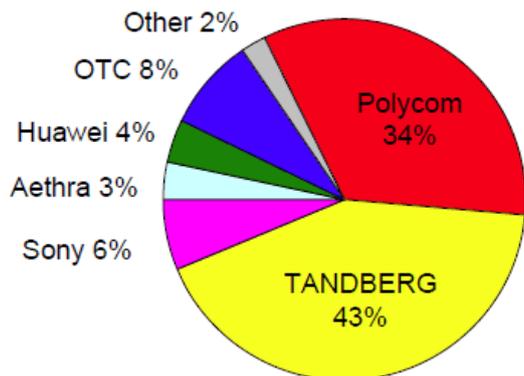
記事: Videoconferencing Industry Statistics Q3-2007
Vol.8 #39 November 27, 2007

The Wainhouse Research Bulletin

<http://www.wainhouse.com/files/wrb-08/wrb-0839.pdf>

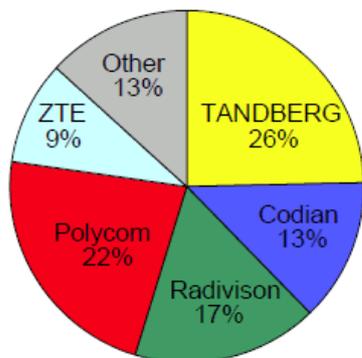
(以下、CNA レポートジャパン橋本の補足も含む)

Videoconferencing Group Revenue Q3 2007



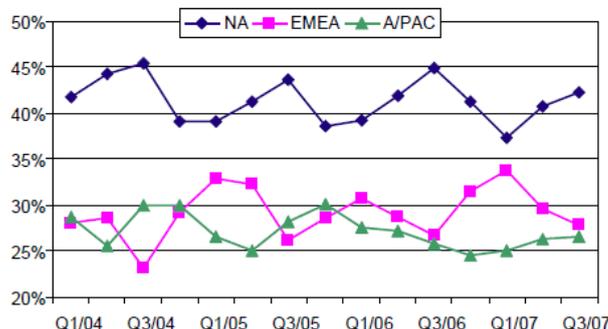
【上グラフ】2007 年第三四半期グローバルテレビ会議専用端末市場シェア（売上ベース）

Videoconferencing Infrastructure Revenue Q3 2007



【上グラフ】2007 年第三四半期グローバルテレビ会議インフラ製品（MCU など）市場シェア（売上ベース）

WW Group System Revenues - Regional Split

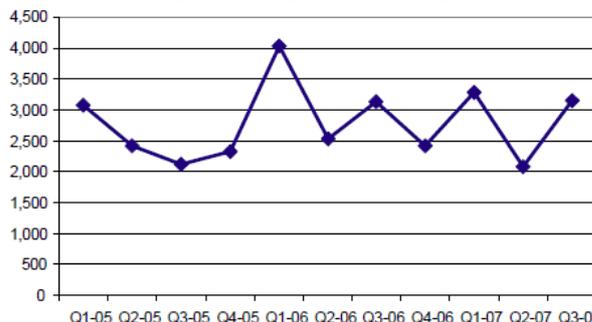


【上グラフ】テレビ会議専用端末システム地域毎売上比（北米、欧州中東アフリカ、アジア太平洋）

	Q3-06	Q2-07	Q3-07	Seq Growth	Annual Growth	Seq Growth last Q	Annual Growth last Q
Total Group Rev.	\$209.8	\$262.3	\$294.2	12.2%	40.2%	5.0%	34.1%
Total Group Units	42,757	49,043	54,140	10.4%	26.6%	0.3%	25.5%
Infrastructure Rev.	\$66	\$76	\$77	0.9%	16.1%	11.1%	42.9%

【上表】売上、出荷台数 - Total Group Rev.（専用端末売上）Total Group Units(専用端末出荷台数)、Infrastructure Rev.(インフラ製品売上)。Seq. Growth(対前四半期比)、Annual Growth(年成長率)。Last Q(Q2-07 から見た対前四半期比、対前年比)。

Group Unit Shipments in Japan



【上グラフ】テレビ会議専用端末システム-日本市場四半期毎出荷台数推移

会議システム専門の米調査会社 Wainhouse Research 社(ウェインハウス・リサーチ, <http://www.wainhouse.com>)の発表によると、第三四半期のテレビ会議専用端末の売上、出荷台数は、好調だった第二四半期よりもさらに好調さを上回ったと報告。

インフラ製品は、微増であったが、専用端末の売上は、第二四半期に比べ 12.2%増で、2 億 9420 万 USD(約 億円)。出荷台数は、10.4%増で、54,140 台と大幅に増加している。(Seq. Growth、Seq. Growth last Q など。黒字と緑字を比較。)を参照。)

専用端末売上では、タンバークが 43%で、ポリコムの

34%を上回ったという結果だが、端末出荷台数では、ポリコムが19,529台、タンバークが15,398台と、ポリコムが上回る。インフラ製品ではタンバークがコーディアン(Codian)を買収し、両社合計で39%のシェアとなっている。

中国メーカーの台頭は、専用端末市場、インフラ製品市場とも顕著に見えてきており、専用端末では、Huawei社、OTC(中国メーカー複数社)で12%、インフラ製品では、ZTE社が頭角を現している。

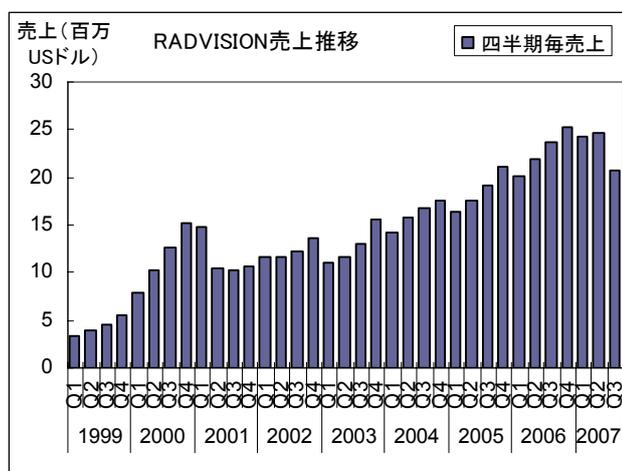
北米の調査会社が日本市場の四半期数値を公表することは珍しいが、Wainhouse Research社の統計数値によると、日本国内の出荷台数は、一四半期当たり2,000台から3,000台が平均のようである。

業績発表-海外

米 NASDAQ 上場企業業績レポート

2007年第三四半期(7月-9月)

イスラエル ラドビジョン社



イスラエルのラドビジョン社第三四半期は、2070万USD(約23億4200万円)の売上と発表している。前四半期及び前年度同期四半期に比べ減少したが、事業予測通りの結果としている。

ネットワーク・ビジネス・ユニット(事業部門)は、1440万USD(約16億3200万円)、テクノロジー・ビジネス・ユニットは、630万USD(約7億1000万円)。

今回の結果について、同社発表のプレスリリースによると、CEO Boaz Raviv氏は次のように述べる。「テクノロジー・ビ

ジネス・ユニットの結果が予想よりも良かったにもかかわらず、HD対応のSCOPIA Platformが多画面分割(Continuous Presence、1画面に複数拠点が同時に表示出来るモード)に完全に対応していなかったためにうまく売上に結びつかなかった。」と分析している。同社からは11月にSCOPIA V5.5で多画面分割対応を発表したため、今後は、チャネル販売の強化などを通して、「2008年の後半までには成長軌道に回復したい。」と今後の展開に自信を見せる。

セミナー・展示会情報

楽しんで参加するWeb会議&セミナー

～ 集合型との違いを体験! ～

日時: 12月18日(火) 14:00~15:00

会場: インターネット上の会場(オンライン)

主催: ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_121807.html?SourceId=hpg

業務プロセスに変革をもたらすWeb会議導入

～ コスト削減以上の成果を求めて ～

日時: 12月20日(木) 14:00~15:00

会場: インターネット上の会場(オンライン)

主催: ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン 詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_122007.html?SourceId=hpg

*ラーク・コンサルティング・グループ 取締役 森 有史氏による講演。

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

今年の発行もなんとか無事に出来ました。皆様のご協力のお陰です。創刊は1999年12月でしたので8年経ったということですが、PDF版の発行開始2003年1月から数えると5年たったこととなります。ひとつの節目を迎えたという感じがしております。

今年は個人的には映画にはまった年ですが、古い映画ですが、その中で改めて「羅生門」と「十二人の怒れる男」は絶品だと思いました。本では、「夜と霧(ヴィクトール・E・フランクル)」には深い感銘を受け、「落日燃ゆ(城山三郎)」には考えさせられました。

来年は1月15日号から開始の予定です。良いお年をお迎えください。来年も宜しく願い致します。

代表 橋本啓介